

# 学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第8号



2010年10月17日発行  
発行責任者 岡田守弘  
芳川玲子

〒259-1292 平塚市北金目 4-1-1

## 日本学校心理士会 2010 年度大会（2010.8.21～22）報告

日本学校心理士会 2010 年度大会に寄せて

神奈川支部長（大会準備委員長） 岡田守弘

例年と比べてあまりにも暑い夏でしたが、神奈川支部会員の皆様の励ましと有形無形のご協力、ご支援により、つつがなく大会を終えることができました。全国から 500 人を超える参加あり、ポスター発表は 50 件を超え、学校心理士の意識の高さと熱意に感激しました。



今回は特に「神奈川らしさ」を前面に打ち出し、本県の様々なリソース(資源)を紹介することができ、あらためて本県の学校心理学に根ざす実践の豊富さとそのレベルの高さに感心しています。2010 年度全国大会

の開催をお引き受けし、神奈川の力を全国に発信することができて、神奈川支部としては鼻高々と言っては言い過ぎでしょうか。参加された学校心理士の多くの方々から、今回の運営面や内容面に対して、お褒めの言葉をいただきました。それらは支部会員の皆様と分かち合うべきものです。

さて祭りも終わり、通常の活動に戻りたいと思います。引き続き積極的な参加をよろしく願いいたします。

### 1. 基調講演 「拓く、つながる 学校心理士の未来へ」

石隈利紀（筑波大学）、大野精一（日本教育大学院大学）、岡田守弘（帝京大学）3 氏のリレーによる公演が行われました。まず、石隈先生より、日本の学校心理学は生徒指導・教育相談・キャリア教育、特別支援教育、個に応じた学習指導をルーツとしていることが語られました。また、スクールカウンセリング推進協議会と「教育・発達」心理資格連絡協議会の最近の動向について、参加する団体の資格を「ガイダンスカウンセラー」と呼ぶことにしているとのことのお話がありました。

次に、大野先生より、日本型の学校心理士、学校心理学の再確認へ向けた次のような論点が提示されました。「学校心理学をカウンセリング心理学ベースの学校教育相談に特別支援教育を加えて捉えてはどうか。『特別支援教育コーディネーター』を組み込んだ『教育相談コーディネーター』として位置づけてはどうか。日本の学校心理学は学校現場実践（学校教育相談）を十分組み込んでいるか。」といった論点でした。

最後に、岡田先生より、2008、2009 年度の「学校心理士による実践活動（相談業務）に関する実態調査」の結果が報告されました（学校心理士会年報 第 2 号参照）。また、自身や集団への折り合いに苦戦してい

る子どもの体験不足を補充・補完する目的で作成された横浜プログラムについて紹介されました。その効果は子どものみならず、支援検討会を通して教師にも効果的であることが報告されました。(文責：樽木)

## 2. 公開講座：レジリエンスを支える自尊感情-その理論と測定そして実践- 近藤 卓 (東海大学教授)

子どもたちからの「命の大切さに確信がもてない」という根源的な問いに対し、あいまいさ耐性の低さやレジリエンス (精神的回復力) の弱さ、PTG (外傷後成長) の難しさが背景として考えられるというお話がありました。教育現場では「子どもたちの自尊感情が低い」と言われ、それを高めるために「ほめる・認める・出番を作る・評価する」といった取り組みがいわゆる「それで本当にいいのだろうか」という問いがなされました。成功と要求の関係でなされる社会的自尊感情だけではなく、心の基盤を支える「あなたはあなたのままでいい」という基本的自尊感情を育てる必要がある。そして、基本的自尊感情を育む3つの条件として「基本的信頼」「無条件の愛と無条件の禁止」「共有体験」をあげられました。「身近な信頼できる人との共有体験のたびに少しずつ積み重なる、和紙の束のような」基本的自尊感情という部分は特に感銘を受けました。共有体験の実践例のスライドもご提示頂き、大変に意義深いお話に会場から大きな拍手がわきました。(文責：奥村)

—写真—      ポスター発表      懇親会



## 3. 研修会およびシンポジウム

### (1) 子どもの社会的スキルへの発達支援 —横浜プログラムの理論と実践—

#### 午前「横浜プログラムの理論と実践」岡田守弘 (帝京大学)・蒲池啓子 (横浜市教育委員会)

岡田先生からは、「誰もが・安心して・豊かに」「大学・行政・学校の3者連携」「積極的な・生徒指導」というキーワードのもと横浜プログラムが開発されたという経緯や横浜プログラムの基本概念等について説明がありました。蒲池先生からは、横浜プログラムの基本的な進め方やY - Pアセスメント (児童生徒自己評価アンケートと学級担任等による学級風土チェックシート) の活用の仕方と実施上の配慮事項について、演習や映像を交えて説明がありました。

#### 午後「横浜プログラムの理論と実践」齊藤宗明・蒲池啓子 (横浜市教育委員会)

齊藤先生からは、横浜市が抱える児童・生徒指導上の諸問題の特徴について触れながら、横浜プログラム開発の経緯や横浜プログラムの基本概念について説明がありました。蒲池先生からは、午前と同様に横浜プログラムの基本的な進め方やY - Pアセスメントの活用の仕方について説明がありました。(文責：古屋茂)

### (2) 後期中等教育における支援教育

#### 午前「クリエイティブスクールの実践と支援教育」中田正敏 (明星大学)

新しいタイプの高校として発足したクリエイティブスクールの校長として、いかに生徒に寄り添うか、心を掴むかを学校として組織化し実践してきた結果、中途退学が激減し、校内が活性化していく様子が淡々と、しかしきわめて論理的に語られました。生徒の変化、教員集団の意識の変化が手に取るようにわかり、感動的でした。

#### 午後「高等学校における教育相談の実践」田村順一 (瀬谷養護学校)・浜崎美保 (田奈高校)

田村からは、神奈川県が取り組んできた後期中等教育における特別支援教育のあり方の報告書と、県全体としての取り組みの様子が紹介されました。後段の浜崎先生の実践報告は、クリエイティブスクールに於ける生徒指導や教育相談の実践の経過と、それに伴って今まで自尊感情の持てなかった生徒たちが徐々に自信をつけ、授業に取り組み始めていく様子がDVD映像でも生き生きと表現されていました。(文責：田村)

### (3) 「地域支援」

午前「**地域センター推進協議会の取り組み**」田中みか（県教育委員会）・奥野康子（県立総合教育センター）

各特別支援学校の相談担当者が、制度発足当時の未知なる分野の中での奮闘状況から、自分たちで力量の向上に努めセンター的機能の充実と整備を行ってきた経過が話されました。神奈川県としては、今後さらに協働・連携を図って地域支援を推進していくとのことです。

午後「**特別支援学校におけるセンター的機能の実践**」滝坂信一（東京農業大学）・森 恵（藤沢養護学校）・梅原美香（茅ヶ崎養護学校）

2校の実践事例をもとに活発な意見交換がなされました。参加者の方々から多くの質問が出され、互いの状況を知りたいというニーズの高さを感じられました。最後に、コーディネーターの滝坂先生から「実践を検証するスーパーバイザーの必要性」「センター的機能担当者のその後の人材活用」「発達障害に偏りがちの相談・支援への検証」というまとめを頂き、熱い思いのこもった研修会を閉じました。（文責：奥村）

### (4) 「発達障害」

午前「**脳科学と発達障害**」渥美義賢（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）

自閉症者は人の顔や表情の認知に健常者とは異なった脳の部位を使っている可能性があり、その部位や使われ方は自閉症者により異なることが、脳の断面画像をもとに説明されました。さらに、自閉症治療薬のオキシトシンや認知に大きく関係する神経細胞のミラーニューロンの働きについて説明されました。脳科学の研究は著しい発展を遂げているが、特別支援教育に直接的に応用できる段階ではなく、そのことを理解しての地道な指導の必要性が指摘されました。

午後「**通常学級における発達障害児の指導**」小林倫代（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）

通常級において特別支援教育を推進するために、学級全体と個別の支援の両方向からのアプローチが大切であることが強調されました。その上で、すべての子どもたちに分かりやすい授業の工夫として学習のユニバーサルデザインと、一斉授業への参加が難しい子どもへの手だてとして、教材教具の工夫が説明されました。国立特別支援教育研究所で開発中の学級サポートプランについても紹介されました。（文責：大里）

### (5) 「学習支援に対するコンサルテーション」

午前「**行動観察の理論と実際**」小見祐子（柿の木坂相談室、神奈川県スクールカウンセラー協会）

学習支援のための行動観察と具体的な支援について解説していただきました。特に、学習のつまずきの背景にある「読むこと」「書くこと」「計算すること」「聞くこと」「話すこと」の困難さについての行動観察のポイントについて詳しくお話頂きました。また、学習支援では、子どもの自己肯定感を高めること、得意分野で達成感を味あわせることなどが大切であることを具体的に分かりやすく説明していただき大変参考になりました。

午後「**授業等での子どもの行動観察を通して**」佐藤照明・竹居田幸仁（厚木市青少年教育相談センター）

当センターが小学校に派遣しているスクールカウンセラー（SC）が、授業中の行動観察を行い、その後先生方との話し合いを通して効果的な支援につなげた事例が紹介されました。今後、SCとしての業務は、教職員へのコンサルテーションを中心に行う必要があることが提言されました。また、事例を基に参加者との活発な意見交換があり、参加型の有意義な研修会になりました。（文責：佐藤）

### (6) 「教育相談・生徒指導での教育的対話法 ー指導が困難な児童生徒との教育的対話」

午前「**教育相談・生徒指導での教育的対話法：理論編**」大草正信（大草心理臨床教育相談室）

教育的対話法を実践するために、まず、心理学的知識について学びました。心の思いには二種類あり、それは自然に思ってしまう思い（一次意識）と、自から思ってみることをして創っていく思い（二次意識）で、教育の対象は後者となります。さらに、二次意識の中でも、現代っ子の人格形成の教育に大切なものは、適応機制にまつわる思いで、この思いを教えていく必要があります。そのために、体験的対話教育法を研修しました。それは、①一次意識の受け止め、②これから達成する目的の二次意識の提示、③そうなりたいと思う期待の思いの三つを子どもに聞かせ、子どもが思ってみることができるようになるものです。

午後「**教育相談・生徒指導での教育的対話法：実践編**」大草正信（大草心理臨床教育相談室）

シナリオ・ロールプレイ法での実演がテーマの研修でした。シナリオ・ロールプレイとは教育的対話を、

書かれているシナリオ通りに読み合わせをしながら、そこでの対話を体験するというものです。こんな教育的対話法があるのかと、興味津々の研修になりました。（文責：大草）



—写真— 研修会 シンポジウム

(7) シンポジウム「東アジア圏のスクールカウンセリングから学ぶー香港と台湾の調査研究から」  
企画：大野精一（日本教育大学院大学） 司会：金山健一（函館大学） シンポジスト：西山久子・納富恵子（福岡教育大学） 芳川玲子（東海大学） 指定討論者：河村夏代（兵庫県スクールカウンセラー）、菊池まり（東京都教育相談センター）

今年の3月学校心理士会主催の海外研修ツアーに参加したメンバーにより、東アジアにおけるスクールカウンセリングについて学んだことをシンポジウム形式で発表されました。最初に西山先生より香港の包括的スクールカウンセリングをテーマに、アメリカ及び香港のスクールカウンセリングの歴史について紹介していただき、さらに海外研修の折に撮影したビデオを見ながら、香港のスクールカウンセリング体系の特徴について話をいただきました。その後、納富先生より whole school approach を背景とした香港の特別支援体制について詳しく報告していただきました。3人目のシンポジストは台湾での研修内容についてビデオを使用して振り返った後、スクールカウンセリングにおいて重要な役割を果たしている輔導教師と諮商（ししょう）心理士について報告しました。両指定討論者からは日本との違いや学校心理士との関連について、フロアからは輔導教師の役割について熱心な討論がありました。時間が足りないと感じさせるくらい豊富な内容でした。（文責：芳川）

## お知らせ

### 1. 神奈川支部ホームページについて

神奈川支部ホームページが開設されました。アドレス <http://www.sp-kanagawa.net/> 今後みなさまのご意見をいただきながら充実させていきたいと考えています。ご協力をお願いします。

### 2. 第25回研修会

日時：2010年（平成22年）11月21日（日）14:00～17:00  
会場：ウィリング横浜（京浜急行/市営地下鉄「上大岡」駅下車 徒歩3分）  
内容：「協力的集団体験を通して中学生の自己評価を高める教師の援助的介入ー文化祭での学級劇活動に焦点をあてー」

講師：樽木 靖夫（帝京科学大学）

### 3. 第26回研修会

平成23年2月27日（日） 地区開催と連携 会場、テーマ、講師 共に未定



—写真— 大学生スタッフと神奈川支部役員

### 編集後記

8号は8月に行われた全国大会の特集となりました。多くの執筆者にご協力いただいて上げることができました。感謝いたします。大会参加者より、どうやったらポスター発表できるのかと聞かれました。発表やレポート作成の研修会があってもよいのかも知れないと感じました。ニュースレターも、今年度あと1回の発行を予定しています。ニュースレターと支部ホームページで、みなさまとのコミュニケーションの充実を図っていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

E-mail : [ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp](mailto:ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp)